

ワークショップ型の授業研究協議について

授業研究会は、従来の形では、授業者の指導方法が話題の中心になることが多かった。また、特定の教師の発言が多くを占め、参加者全員が議論に参加しているとは言い難い状況もあった。

発言を促し、話し合いを活性化させるために取り入れたのが、ワークショップである。井原中学校区学力向上実践事業としての、各校の授業研究会においても、この形式による協議が多くなってきている。

ワークショップ型研究協議では、参加者一人ひとりの発言の機会が増えるだけでなく、参加者が話し合いの成果を、各



自の授業を見直すきっかけにすることができる。また、お互いの意見を聞き合い、話し合うことで、教職員全体の協働性が向上し、組織としての学校の教育力を高めるという効果を実感することができた。2年間実践をする中で、現在は以下に示すような協議の進め方をしている。

〈事前準備・授業参観〉

- ・各自に付箋紙を渡しておく。
- ・参観者は、付箋紙に気付いたことを記入しながら参観する。

付箋紙の色

- ピンク：良かった点
- ブルー：工夫すべき点

〈研究協議〉

1 授業者による提案授業の説明

- ・研究テーマにかかわり、授業で配慮したこと、授業後の反省等
- ・協議で明らかにしてもらいたい点等

2 グループ協議

4～6人程度のグループを構成し、授業を分析し成果と課題を明らかにする。

- ・模造紙等の上に各自の付箋紙を貼り出す
- ・付箋紙の内容によりグループ化し、小見出しを付ける
- ・グループ化したもの同士の間を議論し、関係を線や文章で表す
- ・成果と課題を明らかにする
- ・課題については、改善の方向性を見いだす

※授業者は、各グループを巡り、随時協議に加わる

3 グループ発表

グループごとに話し合った内容を発表し、情報の共有化を図る。

4 全体協議

グループ発表を受け、全体で共通確認すべきことを協議する。

5 各自の振り返り

協議での学びから、各自明日以降の実践に取り入れていきたいこと等を確認する。